

主 な 記 事

- 記念祭への出席をねがう... 1
- 織物構成糸及び繊維の曲げに関する材料力学的研究... 2
- さろん..... 5
- 会員近況..... 6

千曲会報

昭和35年9月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 長野 6243 振替口座 東京 43341

記念祭に多数会員の出席をねがう

社団法人千曲会理事長 野口新太郎

母校50周年記念祭はいよいよ来月に迫りました。今や本部ではこれに対する諸準備も略々予定通り進捗し、目下最後の仕上げに専念している状況であります。

50周年記念行事の内容は既によく御承知のことと思いますが、財団法人上田繊維科学振興会の設立を中核とし、その他記念式挙行、学術講演会並びに諸学会の開催、記念研究論文集の刊行、記念祝宴開催、物故職員および会員の追悼法要等々を含むもので、この予算500万円は会員の献出に待つこととし、尚この外に地本官民を中心とし広く業界に呼びかけて50周年記念事業協賛会を組織し、その協力によって前記の計画を一層完璧のものにしようとするものであります。勿論この計画は学校側とも充分連絡の上で立案したことは申すまでもありません。

この計画は千曲会としては実に空前の大事業でありましてこれが達成は四千を越える全会員が一致団結これに当って、初めて成し得られるものであり、万一にもこの計画が途中で挫折するようなことがありますなら、それこそ千曲会の面目は全く地に墜ち、醜態を天下にさらすことになるのであります。全く千曲会としては乾坤一擲万難を排して乗り越えなくてはならぬ大課題でありました。千曲会戦後の疲弊未だ癒えない時果してこの計画完遂が出来るだろうか、正直なところ当初本部役員にもその確信はもてなかったのであります。然しそれから3年、この間に於ける本部及び各支会役員らの努力は実に涙ぐましいものであり、又これに応える四千会員の熱意も、又目醒しいものであります。斯くて当初の心配は全く杞憂として消え去り、既に申込額は目標の500万円を遙かに超え、又実際納入額もあと僅かまで目標に達するという盛況であります。勿論この中には母校教職員及び旧職員の力強い協力も大いに預っています。誠に感謝且欣快に堪えません。

又地元官民を中心とし広く全国業界を対照とする協賛会についても、去る四月会長に上田市長、顧問に長野県知事を推して既に充足し、目下県内を初め全国関係業界に向って協力の要請に努めている次第でありまして、この方面の成果も予期の如く進捗し、近く完了の予定であります。

このように母校50周年記念事業は会員の熱意、本支会役員

の努力および地元官民並びに関係業界の好意等によって、諸準備順調に進捗し今や予定通り盛大に挙行し得る見通しは確実であります。誠に御同慶に堪えません。50周年記念祝賀の意義等については、既に屢次の会報に記載されましたから省略しますが、このような記念祝賀が開校以来の校舎で開校当時を知る旧職員や、第一回生を初め初期卒業生の列席も得て行い得るのはこれが最後だろうと思えます。尚又科学の進歩いよいよ目醒しく業界の変遷益々加速度を加え得る今日、今から10年先20年先の母校はどのように発展しどのように変わるだろうか、これは容易に想像できないことであります。従って母校が開校以来の道である糸糸及び繊維の専門学府として迎える記念祭は或はこれが最後かも知れません。その他種々の立場から見ても今次の記念祭は、老若何れの卒業生にも重ねて迎え得ない思い出の記念祭であると思えます。については是非多数会員の臨席を希ってやみません。詳細の御案内状は何れ個々に差し上げますが、本部では当日の出席会員の受入準備には特に意を用いて宿舎の手配その他遺漏なきを期するつもりであります。この機会に上田で久々のクラス会を開こうなどの計画もある模様でありますし、或は又これが最後の上田訪問かも知れないから、老妻を同伴してなどの向もあるとかききました。何れも結構です。然し会場の都合で記念式場や祝宴場等に夫婦席の準備までは出来ないことと思えますが、その他は御同列大いに結構であります。尚予めお申下されば旅館の予約もお取次ぎ致す予定であります。多数会員の列席を具々も希ってやみません。尚この際特に一言申し添えたことは、今次の記念祭は是非全卒業生総参加のもとに行いたいものであります。その意味に於ても未だお申込のない会員には、この際支会を通じ、或は直接本会でも結構ですから至急お申下され当日は是非御参列下さるよう希望してやみません。

最後に間近く行われる記念祝賀諸行事の大成功を確信し、事ここに至るまでの会員各位の絶大な御協力に心からの感謝を捧げると共に、其節は何卒万障お差繰御臨席下さることを本部役員一同心からお待ちいたします。

50周年記念祝賀事業日程

- 8月25日開催の50周年記念事業祝賀会の正副委員長会議において祝賀事業日程について審議次のとおり決定された。
- 10月19日(水) 準備(9.00~17.00) 前夜祭(15.00~20.30)
- 10月20日(木) 祝賀式(10.00~感謝状贈呈を含む) 祝宴(12.00~) 市長招待会(18.00~) 展覧会(午後から)
- 10月21日(金) 蚕糸・繊維両学会共催学術特別講演会(9.00)~14.00) 商工会議所会頭招待会(12.00)
蚕糸学会研究発表会(14.30~17.00) (展覧会朝から)
- 10月22日(土) 蚕糸学会研究発表会(9.00~午前中) 蚕糸学会総会に引き続いて研究発表会(13.00~17.00)
記念文化講演会(一中講堂・18.30~22.00) 展覧会(〃)
- 10月23日(日) 物故者追悼会(旧講堂・9.00~) 運動会(10.00~16.00) ダンスパーティー(18.30~21.00)
展覧会(〃)
- 10月24日(月) 学生会・文化局発表会(演劇・音楽・映画等・9.00~17.00)
- 10月25日(火) 競射会・空手演武会(9.00~11.00) 学内祝宴(11.00~13.00)
ハイヤーストーム(18.30~20.30)
- 10月26日(水) 後かたづけ

註 市中においてこの期間に大々的な繊維祭を行う模様

(祝賀日程中は休講)

織物構成糸及び繊維の曲げに関する材料力学的研究

—— 鈴木恵氏学位論文の紹介 ——

信州大学繊維学部(紡織学科)助教授鈴木恵氏は表記論文に対し昭和35年3月、慶応義塾大学から栄ある工学博士の学位をうけられた。

鈴木恵氏は昭和26年3月、慶応義塾大学工学部機械工学科を卒業されてから直ちに同大学大学院に進まれ、特別研究生として、又帝人奨学生として、高分子固体並びにその溶液のレオロジー的性質に関する研究に専念して居られました。昭和30年6月当繊維学部へ講師として来任、33年2月助教授に昇任されました。その間、学生の教育指導に努力されるかたわら「織物のしわ」に関する私共の共同研究の最も熱心なメンバーの一人として精進され、氏独特の実験と計算を進められ、しわの力学に対して重要な貢献を残されました。今回この研究の成果が学位論文として認められ、学位を得られました事はまことに氏の努力の賜であり、誠に喜びにたえません。

本論文は六章から成り、第一章は緒言で本研究の動機を述べている。

第二章は「織物を曲げたときの構成糸の応力」と題し、織物を曲げた時に、織物の構成繊維がどんな応力を受けるかを、先ず単純な材料力学の問題として理論的に考究したものである。即ち構成せんいに対して曲げ変形は弾性領域内において行われること、糸中の単繊維相互の摩擦力は考に入れないこと、ならびに曲げ変形によつて断面の形状は変化しないことを仮定し、従来ワイヤロープの曲げの問題等に関して行なわれている理論式をこの問題に適用して応力の計算を行った。その結果から構成糸を与えられた曲率で曲げたとき(a)繊維の

織度(繊維の太さ)が大きい程、又繊維数が少ない程、かつ曲率が大きい程曲げ応力は大きくなること、(b)ピッチ角(糸の繊維の捻り角の補角)を大にすると曲げ応力は大きくなること(c)構成繊維の受ける応力は単糸で構成された織物よりも双糸で構成された織物の方が少ないこと等を数値的検討によって示した。なお繊維相互の摩擦の影響を考慮する必要があることを指摘した。



第三章は「曲げられた繊維の光弾性実験」と題し、1本の繊維が曲げられているときの応力状態を著者の考案した光弾性実験装置によって実験的に研究した結果をのべたものである。織物の繊維のような細いものの応力や歪みを実験的に求めることは極めて困難とされていたが、著者は偏光顕微鏡による光弾性装置を用い、ナイロン、テトロン

のような円形断面をもった繊維自体を試験体とし透過法による実験を行ったものである。普通の透過光弾性実験では使用模様の材質と実際の材質とが異なるから、一種の比較実験であるが、著者の実験では実際の材料自体を実験に供したところが特色である。光源としてはナトリウムランプ又は白熱灯を使用し、その光を偏光子を通じて供試材料にあて、それらを透過した偏光を検光子を通過せしめ、これを顕微鏡の視野中において観測および撮影を行ったのである。供試材料は市販のものを用い、その残留応力を除去するために、又要すれば撚りをかけた状態を作りだすために、熱処理を行った。撚りをかける場合には二次転移温度(通常常温以上にある)まで加熱し、この状態で撚りをかけ、次にこれを徐冷したのである。繊維を曲げる方法としては、繊維をスライドガラスと

デッキグラスとの間に挿入し、二個の薄い鋼板で側面から押して曲げる方法をとった。スライドグラスとデッキグラスとの間には浸液としてトリクレジルホスフェート、ジブチルフタレート、ジフェニールアミンの三者を適当な割合に混合した液を作りこれを浸み込ませておいて、光の分散を防いだ。このような装置ならびに実験方法により繊維に生じた応力による干渉縞を観測し、又は写真撮影を行った。この写真を用いて応力解析を行った。応力解析の方法は、前記の実験によって得られた二次元応力値から、略近理論によって繊維の横断面における応力分布を推算するものである。その結果によると、(a)撚りをかけられてらせん構造となっている繊維の曲げ応力値は、理論値よりやや小さい。しかし真直な繊維の場合には、ほぼ理論値と一致する。(b)実測によって屈曲部及びそれに接している直線部における応力値を求めその存在範囲が繊維の種類や曲げ半径によって変ること、等がわかった。

第四章は「曲げられた糸の粘弾性的挙動」と題し、今日使用されているところの普通の紡績糸で作られた織物では、その局部に歪みを生じた場合に、その応力は弾性領域内にあるのが一般である。このような場合には、たとえしわができてこれも完全に回復する筈である。しかるに実際には織物にしわが残るのである。著者はその原因として摩擦の効果を取りあげ、そして糸をスプリング、ダッシュポットおよびスライダ（固体摩擦）が連続的に分布しているところの粘弾塑性体でおきかえ、力学的考察を行ったものである。即ち糸中の繊維相互の摩擦力および繊維材質の変形回復遅延時間の逆数の分布関数と、クリープ歪みおよび回復クリープ歪みの理論的關係式を先ず示し、次にこの関係式から、繊維相互の摩擦力と繊維の材質の遅延時間の逆数の分布関数のいずれもが(a)ガンマ型分布（単項指数関数で表示される）である場合、と(b)一様分布である場合、との両者に対して、織物および糸のしわ角に対する理論的表示式を誘導した。ここにしわ角と

は織物、糸などを百八十度に折り曲げた後これが自由状態にされたときに回復する角をいう。

第五章は「糸のクリープおよび緩和実験」と題し、著者は先ず糸の引張りクリープ試験装置および応力緩和実験装置を作り、これを用いて実験を行った。供試材料としてはナイロンの燃糸を用い、特により数を種々に変えて実験を行った。そして延び対時間（クリープ）曲線および応力対時間、（応力緩和）曲線を実験的に求めた。かようにして求めた実験的曲線を利用して前章に示した理論公式中における分布関数を概算した。

次に著者は糸の曲げモーメントの緩和実験装置を作成して実験を行った。この実験装置は一志、内田両氏の使用した実験装置を著者が定速で一定曲率に材料を曲げることのできるように改良したものである。この実験装置を用いて、ナイロンの燃糸について実験し、曲げモーメントの緩和と時間との関係を求め前記と同様に分布関数を概算した。

以上の結果を総合的に検討して構成繊維相互の摩擦力の分布関数は、糸の引張り試験から得られたものと曲げ試験から得られたものと根本的に相違することがわかった。糸の曲げモーメント緩和実験中における糸の状態と引張試験中の糸の状態が相違していることが、別に確認されたので上記の結果が合理的に説明され、また第四章で取り上げたところの摩擦を考慮した粘弾塑性模型が実際の糸の挙動によく適合するものであることも実証された。

第六章は「総括」であって、ここで著者は本論文の内容を総括的にのべている。

以上が氏の論文の概要であるが、この研究成果が天然並びに合成繊維製品、品質改善のよき指針となり、又氏が今後とも益々御健康で研究に教育に益々大きな貢献を残される事を念願してやみません。（呉祐吉記）

特殊心理下の常識

石 倉 新 十 郎

常識といえは平素の考えによる判断であるが、人には平素と異った心境に入ることがある。たとえば学生の頃難解の数学問題に没頭したとき、苦心の挙げ句はとと解明に出合った経験は誰れにも在ったことであろう。精心を事に集中して到達する心境は日常の精心状態と異り、禪家でいう無我の境地とはこれではなからうか。私は参禅した経験はないが、聞く所によると禪では導師から公案（考えこむ問題）を与えられ座禅して心をこれに集中する。そして無我の境に入った時心に閃く判断を悟りというらしい。私は数学の問題以外に類似な経験を幾つかもっているが、そのうち変わったのが2つある。その場合難解の問題が解明されたばかりでなく、それには意外な幻象が伴っていたのが珍しいのである。だからこれを精しく話せば興味を感ずるかもしれないので、敢て披露することとした。

最 初 の 場 合

大正の末頃であろうか、卒業生の就職難が辛酷になって来

たとき、当時一流の紡績会社から申し込みがあって、身体強健思想堅実学績優秀の者を1名推挙するよう要求して来たのであった。欣喜雀躍直に或る新卒業生を心に選んだのであった。念の為と思つて教務課から学績簿をとりませ点検したら意外にも学課の1つに乙があった。落胆したが登記された後だからどうにもならない。勝手に甲に改めれば公文書疑造の犯罪となるし、このまま正直に報告すれば採用不能は明かである。絶対絶命の苦悩に陥つたのである。ただ茫然としていると汗は背に流れ額から机上に滴るままに机上の書棚に對應していた。すると戸棚の表面が画面のように変り見渡す限り人海である。全面黄金光りで遠方も近くも僧侶の顔で充満しその前面中央に一段大きく釈尊が嶄然と輝いている。これに見入っていると突然乙を甲に書き代える方法に気がついたのである。占めたと喜んだ瞬間光輝の幻影は消え、いつのまにか汗は乾いており気分は爽快である。早速紙片にこの卒業生の学績について外部より照会があった場合には必ず先ず科長

に相談してから処置することと書き記名捺印して帳簿に貼附し、安心して乙を甲に改め推薦書類を調べたのである。職員は既に退出してしまい静かな学校になっていたのであった。

次 ぎ の 場 合

昭和の初期の頃或るとき学校に珍しい人が来た。その人は横須賀海軍工廠の少年工上りで、独学して大学程度の学識を修めたのである。その人が職員学生に講演したのである。元来私は輸出繊維物製造で身をたてる考で一時的に学校に来たのに、請われるままに心なく教職員となり、長引いて科長にまでなったのである。だから性格が学校向きでなく、研究にも便宜が与えられず、生活に至って気楽であったが、内心不平不満の連続であった。だから講演に心うたれ、その人に対談したくて、宿所であった当時市役所南隣の銀行頭取の家(今の林君宅)を訪問した。そして長年疑問であった教育とは何かを尋ねたのである。

すると話しの途中飲んだ茶碗を指して、あなたにはこの中に何が見えますかと聞かれたのである。私が困っているとわたしには多勢の労働者が見えますと言った。解らぬままに辞して帰ったが、脳裡に強く浸みこんだのである。

それは涼しくなった9月末の頃であり、夕食後風呂からあがり爽快な気分で見鏡の前に座り、髪に櫛を入れ鏡に見入っていると、知らぬ間にあだかも海底に静座しているように全身に強い圧迫感があり、顔も硬化した様に思われたのである。すると突然茶碗の中の労働者が判ったのである。その理解を話せばこうである。茶はどこの人か知らない農人によって栽培され、誰かが摘みとり蒸したり揉ったりしてできたものである。それを商人の誰かが買い集めそれが輸送されて上田まで来たのである。それを町から買いとり、女中が湯を沸かし茶

にしたて卓上まで運んでくれたのであった。かように私のために知らぬ多勢の労働が集積されたのである。

なるほどと気がつけば隣室では妻が客と話していたのである。聞けば30分以上鏡台に対座していたらしい。

理解ができた嬉しさに就床しても眠れないままに考えれば茶の問題だけではない。人の日常の活動は社会に役立つ成果を収めることであって、結局社会の幸福への貢献以外ではない。人生は各々志望達成にあるようであるが、社会的価値ある活動であろう。出来るだけ価値高い人間に育成することが教育の真意ではないか。心眼が開いたような気ももちになったのである。

翌朝は早く目が醒めて登校の途次昨夜の理解を話したくて講師を訪ねるつもりで、前の上田中学校の扉端まで行き、ふと空を仰ぐと頭の真上に月の輪位の大きさに明るい円盤が見えた。妙なことと思って太郎山や附近の街家を見れば平素と変りがない。念のため目を閉じ首を振って空を仰げばやはり明るい円盤が見える。不思議と思いながら頭取りの家を訪ねると早過ぎてまだ門が締っていた。そこで帰りに寄りうと考空を仰ぐともう円盤は消えて静かに流れる雲が見えただけであった。

附言 この経験から思うに仏像の背光青輪や宗教画で見る聖人の頭上に画かれた円盤はこの幻影を現したのではなからうか。そして矛盾の中に苦しむ心情を不動の金縛りとか背を捻かれるとか言うのを具現したのが不動尊の志伴であり、その苦痛から脱するのが釈迦の救いであり、そこに文珠の智が現出するらしい。善賢地藏弥勒観音までは推測してもそれより先きは判らない。

50周年記念事業協賛会創立総会開催さる

母校創立50周年記念事業協賛会第1回役員会が8月29日午後3時より上田商工会議所会議室において開催された。出席役員は35名で盛会であった。その次第は

- 協賛会長挨拶 井上学生後援会長が会長代理として挨拶。
- 経過報告 野口理事長より発起人会、小委員会の経過報告が詳細に述べられた。
- 協議事項 議長に井上副会長連席され、協賛会会則、役員、予算案について審議し原案どおり可決した。視察行事日程は本号掲載のとおり万場一致賛同決定した。
- 学部長挨拶 小泉学部長、明治43年学部前身上田蚕糸専門学校発足以来50年の歩みと記念事業の意義を述べられ更に学部改新の構想について述べられ賛同協力に対し謝辞があった。
- 祝 辞 浦生学生後援会副会長、西川理助学生後援会理事より記念事業を機会に学部の益々繁栄発展を希望祝辞を述べられた。閉会后その席で懇親会が開催され成沢上田商工会議所会頭の音頭で協賛会の結成を祝って万才三明をし役員会を終った。



用水処理剤

- 繊維加工用水の処理.....金属イオン封鎖剤 CHELATE-S
 - ボイラー用水の処理.....高純度清浄剤 CHELATE-B
 - 精練・漂白助剤..... CHELATOLE-60
 - 食品添加剤..... CHELATE-F
- 詳細説明書御申込次第お送り申し上げます。
千曲会々員 鈴木 薫

日東化工株式會社

東京都目黒区洗足1442番地 電話(781) 9526

特 許・実用新案

意匠・商標 出願・審判・訴訟代理

浜 特 許 事 務 所

弁 理 士 浜 香 三

事務所 東京都港区芝南佐久間町1 / 51

電 話 東 京 (501) 9202

自 宅 武蔵野市緑町公園住宅7 / 302

SAI ON

宮城支会人物誌 (I)

山本友之丞

網村 貢 (蚕 1)

この人が石川県蚕業取締所長から宮城県
の取締所長になってきたのは昭和10年
の事だ。内務部農務課の蚕糸係長を兼ね
た同窓唯一の地方技師で(内務省系の官
吏、その頃の多くの県の課長連は地方農
林技師という農林省系で一格下の役人)
はあったが部下は十人足らずの小さな椅
子が彼を待っていた。それがこの人が退
官した昭和17年4月には彼の蚕糸課内
には30余人がヒシメキ合っているという躍
進振りであった。

昭和12年に県内のボロ製糸13工場と片
倉製糸紡績KKとを結合させて宮城県は
共榮蚕糸KKを創立しその成績があがる
と共に彼の名声も亦大いにあがり勢い乗
って蚕糸課を独立させその課長となつて
ニノマリ笑ったのが昭和14年4月1日の
朝であった。この日から昭和17年に日本
蚕糸統制KK愛知県所長となって転出す
る迄が一番油の乗った時であった。官僚
式ダの学問が強いダのって云われても敢
然として所信を貫いた所は実に美事なモ
ノだった。いい後輩を数多く養成した。
森 干城 (蚕 1)

網村課長の跡目を山形県の桑園主任か
ら昇つてついで二代目。自らを持すこ
との堅きを誇りともした全くの硬骨漢。
陸軍少尉で戦争激化と共にいつのまにか
軍服をお召しになって登庁を始めた。

昭和20年7月9日仙台市が例のB29の
洗礼を受けた夜に警報発令と共に武装し
て出陣し途中で落下した焼夷弾を跳び越
して我が家とは反対の県庁にたてこもり
当所でも何発かの敵弾を消し止め令名を
轟かせた勇士。酒量は多かったが酒には
弱かった人。退官するのを待ち兼ねてい
たかのような郷党に押されて村長に立ち
連続無競争で選ばれ以来今日迄四選を重
ねている。

奥田 達雄 (蚕 1)

日本蚕糸統制KKの初代宮城県所長と
して秋田県蚕業取締所長から仙台にやっ
て来た人、「イヤーまだ何んですヨまだ

恋愛小説を読みますヨ」と云う通りの万
年青年、三等県廻りで緑な仕事のないヒ
マをうまく利用して仕上げた趣味の方は
大したもの、写真、手品、篆(てん)刻
etc.特に産(うぶ)が伊勢で松坂に近い故か国文学
は一通りコナン、その途の権威者とし
て響いた山田孝雄博士健在の仙台NHK
から本居宜長のナンカを放送したのだから
蚕役人を煙に巻くには充分であった。
仙台の戦災では焼け出され終戦直後会社
はマッカーサー指令で解散されて勿々に
郷里へ引揚げて仕舞ったがその後通信を
よこさないで更らに令名をはせた人。

本間 直人 (蚕 1)

信州上田の小県蚕業学校の古い卒業生
が三吉米熊先生をしたうが如く、当地の
人達は本間校長を敬慕している。組合立
の乙種蚕業学校を県立高校に昇格させ、
校舎を新築し教え見達から銅像を建てて
貰い、又私的には伴が医者であること迄
全く同じであるのは不思議の位である
唯違うのは彼の方は子供が十三人あつて
それが揃って秀才であることは兎も角と
して若き日の本間校長の面影の宿る銅像
が今も尚自分が手塩に掛けた伊具農蚕学
校の校庭にあつて三代目の校長の伊藤力
三(蚕17)以下全校1,400の瞳に仰が
れていることである。

活きた銅像の主は全国にもそうザラに
はあるまい。

上野 栄仁 (蚕 3)

太ッ肚では原田兵衛(蚕1)に遜色な
しといわれた上野栄仁にも若い日はあつ
た。上野栄仁が宮城県庁にいて繭検定所
を作り上げてその初代所長になったのが
昭和6年頃であつて全国でも最も早い方
でありそれが認められて農林省入りをし
たものだがその上野が仕事をし様とし
ても頭を押えられ一寸スランプになつた
とき創めたのにハットセ会という集いがある。
これはその名の如く塩釜の俚語のハ
ットセ節を習い覚えてその踊り迄もとい
う集りであるが、実際は不平組のウサの
捨て所を求めたのと、ハットセ踊りは漁
港地帯特有の赤いケ出しをひるがえす勇
壮なもので仙台時代の上野栄仁を大いに
タンノオさせたものでもあつた。

近藤 正巳 (蚕 3)

山形県下で教員をしていた時校長をブ
ン殴つて追払われたんだという伝説の持
主、但し高橋義三郎(蚕3、蚕種製造業
、地主を経て今は生家を改築して自適生

活)によれば此方にいた友人が行詰つて
仕舞つたのを救う意味で自ら進んで交流
人事を引受けてヒヤ飯を食いに来たのが
真相とのこと。美談として附記。

蚕は腐らせるし、第一自分の子供もつ
くれないという晋役は何んでもないへボ
教員だが一度アルコールが宿ると特に天
下無敵である。例えば昭和14年頃農林省
の原田兵衛が乗県してその歓迎会が開か
れた時のこと、古山宗八(蚕2)が数時
間にわたるご接待の為か酔を発してホン
ノ一言クダを巻き始めたと思つたト端直
ぐ傍で畳を見つめて蓋の中に宿る己がヒ
ゲ面をナメているとばかりに思つていた
近藤がイキナリ吐月峯を逆手に持って立
ち上り「黙れソーバツ」と云つたのが早
いかボカリ横ッ面を張り飛ばしたのが早
かつたかハツと思つた時にはその宗八が
頭と脚の位置を換え顔中灰ダラケになつ
てモガイて居た。然しそんなモノには見
向もせず原田先輩の傍へヘダリ寄つて、
「ナーオヤそれでナー」でナ訳で献盃を
して、漸々と頭と脚の位置を平常に
戻した古山が灰をナメナム車座に割り込
んで来ると平気な顔でそれとも飲み合つ
ている。処がこの吐月峯の乱舞はその後
数回に及び流石の古山も「チエツこの小
僧ッ子の奴ウルサクツて酔えねえや」と
音を上げさせたものである。

この酒盛は夜を徹して行われた為近藤
は途中でへバつて仕舞い翌朝さめてから
再び古山に襲い掛つた所今度は一晩中呑
み続けた古山に巻き返される一幕となる
のだがこれはカット。

古山 宗八 (蚕 2)

網村課長が集めた者の中での客分格か
兄弟分と云つた格の男。卒業以来ブッ
と郷里山形県で桑園主任をし、その間高
橋熊次郎代議士を担いで時を得た迄はよ
かつたが勢に乗り過ぎて退職した熱血
漢。人懐しい所があり、酔えば感情を真
裸に曝すクセはあつたが桑を作らせれば
特に天下第一品、山形式無糸中刈仕立はこ
の古山技師が完成したものである。

仙台に来たのが昭和11年の晩秋で県養
蚕連の専任技師であつたが当時県養蚕連
は県庁蚕糸係の一隅に在つた為よく筆者
は仕事を手伝つて貰つたものだった。政
治手腕というよりも高熊(高橋熊次郎氏
の略称)の押しがきいて当時本県の郡養
蚕組合長をしていた県会議員連が古山を
高く評価してくれたものであつた。長所
は流石でスカさずこれを利用して各領補

助金を活用して県養蚕連事務所を独立させ大きな蚕糸会館を建立してその中に入って仕舞った。それからの古山の行動は目を見はるものがあり古山主事の名が今日迄残る事蹟を数多く積み上げたものであった。

彼が今生きているとしたら当時母校の倉沢美徳助教授の山形入りを歓迎し自宅に連れて行ってまず客を風呂に案内したのが尚話す時間がと切れるのを惜しんでお客の入浴中はその湯殿の前にお膳を持ち込んで一杯やり乍ら裸の友人との旧交を温め続けた話しや、又それとは逆に彼を警察の留置所迄連れ込んだ酒グセを書き落す訳には行かないのだが、もうその人の三周忌も過ぎてしまった。

養蚕念仏のことなど

学蚕3 湯原喜照

恩師佐藤春太郎先生がお若かりし頃、神奈川の山岳地帯で演習をされたようにお聞きしたが、まことに戦争ゴッコには好都合の場所が多い。その昔源頼朝より武田信玄までの神奈川地方はその統治下にあった関係上、映画の「七人の侍」「戦国群盗伝」ではないが映画のシーンをそのままで行ったにちがいない。厚木より三里程はなれた所には北条対武田の古戦場があり、史上にも三増合戦との名がある。当地の旧街道(桑畑の中の細道)のかたわらには塚が多く、夜、講話会などの帰りはうっすらと黒ずんで浮かび、気味が悪い。土地の人々に聞くと十年位前までは錆びた刀などが発掘されたそうである。

神奈川県は冬は比較的暖かく、晴天の日が続く、いわゆる住み良さを感じさせる。しかし、養蚕の時期にはきまって小糠雨が幾日も降り続き、タンスの中の衣服などにもカビが生えたりする。土壤は関東ローム特有の黒っぽいサラサラとしたもので、風の吹く日には砂が飛散し、一日中オートバイで養蚕家などをまわっていると体の出ている部分は真黒になり何んともなげなくなる。家々の壁は土でなく、板を用いていることが粘土のないことを証明している。時々イノシシが出て農作物などを荒らされる事もある。

他の地方にもあると思うが、養蚕が終わった後で蚕の神様(いわゆる蚕影様)に感謝する時(十月)がある。神奈川の農村地帯は安政の頃より浄土宗が盛んであ

ったようで、あちこちの村はずれには六地藏が多く、また名残りの御詠歌を唱える老人もある。蚕影様の時は、部落養蚕組合の婦人達が次のような唄を三回くり返してうたうのである。

はつはるに はきおろしたる たまぼ
うき てにとるからには ゆきはんじ
よう くわのめは にしきのはなの
さきはじめ かいこはくにの たから
なりけり はきたてや しじたけふな
に くわつて にわならびに まゆ
つくるなりけり あじのこが あじの
ふるさと たちいでて またたけかえ
る あじのふるさと ふじのやま み
いつのころを たるとして いとひ
きのべて こまのたづなに このたづ
なこんてい こまのくちにつけ みか
みをのせて とどくてんまで

(養蚕念仏、作者不詳)

この集いに吾々業者も招かれて、のんびりこんな唄を聞いていると、現代文明も少々縁が遠くなり、こんなとき一杯こそ美味肴の感がある。

最近、絹に対する認識が世界的に惹起されている傾向は吾々業界人には誠に喜ばしいことである。高島屋デパートあたりでは赤ちゃんブームにあやかっただけであらうか、シルク産衣一揃3万円也のものがあると聞き、唖然とさせられるが、それがまた結構売れるそうであると聞いてまた唖然とさせられる。

当地は東京にも近く、また最近首都圏整備法とやらで工場誘致を行っているために、農村での農地に対する執着度は昔日の比ではない。養蚕においてもまた然りである。誠に寂しいものであるがこれも世の趨勢でいたしかたないものである。唯吾々は与えられた職を全うするのみである。

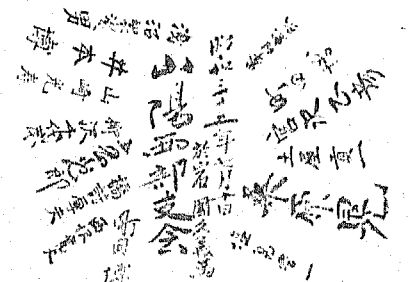
会員近況

山陽支会西部地区総会便り

7月10日、山陽支会西部地区総会が、西日本の重要工業地帯として面目新たな岩国市にて開かれた。

母校より町田理事をお迎えし、山口の塩見さん(蚕4)広島の上岡さん(蚕7)等大先輩も参加され、集った会員は13名平素活動の鈍い山陽支会としてはまざまざの成績であった。

当日は江野村会長御病氣のため、総会開催について種々御骨折りいただいた浅沼さん(紡13)の開会挨拶に始り、町田理事から、母校創立50周年記念事業の概要、母校の近況等について御説明があっ



た。特に山陽地区は会費の納入成績が悪いとの事で、一回恐縮、今後の会費完納を約した。

又、支会定例会開催に関する議案は、会長不在のため次回に見送りとなったが岩国、大竹地区は会員数が多いので、当地区を中心として、秋にはレクリエーションの一日を持つことになった。

その後、ビールの席を抜きながら、町田理事を囲んで、上田の思い出を語り合い、夕刻、一同再会を約して、散会した。

尚、当日の出席者は、寄書の方々です (澤村記)

清水寛孝先生御逝去

清水寛孝先生には腎炎にて御療養されて居られましたが8月12日突然逝去されました。謹みて弔意申し上げます。

先生は大正6年上田蚕糸専門学校就任以来20年間我が紡織科に於て機織、メリヤスを担当され同窓の為に尽力下されました。昭和10年名古屋市工業指導所開設にあたり機織部長として榮転され、10余年間名古屋地区機織業発展の為に大きな業績を残され昭和25年岐阜大学教授として任官昭和30年3月停年にて退官致され郷里岐阜県垂井町宮代に於て悠々自適老後を楽しみつつ活動されて居られました。御家庭はひさ奥様御子息2人御孫様3人皆夫々成人され至極円満な御家庭です。

鹿兒島支会便り

去る7月31日休日を利用して安田岩切両兄の胆入で今回片倉末吉製糸所所長に御栄転された関茂(糸22)兄の歓迎会を兼ね支会総会を志布志町打出浜夏井別荘で開いた。

当日は海水浴場でもあり家族も出席願い会費も亦大人400円、小人150円と詳細交渉頂いて岩切兄自家用車を自から運転会員のために非常な便宜を図って下さった事は感謝に堪えなかった。

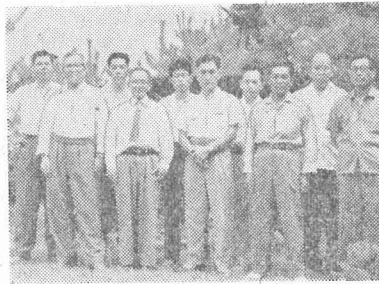
当日の出席者は下記の通りで特に家族の参加で一層睦ましい温かいにぎやかな会合が出来たことは何よりの収穫であった。終戦後初めての盛会であった。併し急に会合決定のため全支会員に通達出来なかったことは残念であった。茲に改めておわび申します。

出席者	同 家 族
関 茂(糸22)	
鈴木 茂(蚕22)	
小門 勝美(蚕別7)	
安田 辰己(糸17)	同 敬子 宗子 トミ子
岩切 作次(糸22)	同 素子 多津 子
酒匂 景雄(蚕22)	
辻 義男(蚕24)	同 民生ひろみ
牧宮 寿雄(糸32)	
浜武 八男(蚕32)	
中山 吉二(蚕12)	
計 10 各	7 名

以上会員10名家族7名計17名であった。先づ中山支会長の挨拶、関所長を会員に迎えたよろこびと心強さ、尚母校50周年記念事業募金申込みは御出費多端の折皆さんの御協力によって九州では第一

位で割当の80%を突破して今一息で100%に達するところである。これ一重に皆さんの御支援の賜物で茲に深甚なる感謝を表する次第である。

次に支会長の改選を現在優秀な人材が多いのでこの際御願したい。支会長を多年つづけ老齢で活動も出来ないのも中山辞任したい旨申出でたが現在のままと云うことになってしまった。牧宮寿雄(糸32)を会計事務に御願いすることにしてけりがついた。



関所長の力強い御挨拶があった後開宴。ビールは関所長の寄附で呑み「ホウダイ」料理は浜独特の特別料理に舌鼓打ちながら酒間の懇談矢張同窓はよいものつくづく人情の温さに一日を愉快に有意義な総会を午後五時半散会した。

木脇、宇都宮、守屋、柳村、瀬脇兄の欠席、日高、東兄には連絡出来ず常に御出席の児玉兄家事情で出席願えなかった事は残念であった。辻兄親子三人牧宮兄等早朝準急で座席券まで出費され、浜武兄は四日ばかりで宮之城から単車で往復前日出かけて頂き安田兄親子は迫水大臣の歓迎会をさいて御出席終始岩切兄と会場その他の御世話頂いた事を改めて追記感謝致し謝筆致します。(中山記)

千曲会山陽支会

東部地区総会便り

山陽支会東部地区総会が去る7月9日倉敷市向市場町旧倉紡工場内の向山寮で開催された。当日は土曜日で遠路はるばる御出席下さった町田先生を囲んで午後2時より会員の出揃うのを待って開かれた。不幸にして過勞の為入院中の江野村支会長の代りに猪原良芳氏の司会で議事に入り席上町田先生より母校50周年記念事業の概要並びに母校の近況について御説明があった。続いて高岡米治氏より支会議案提出があり活発な議論を展開、その中料理とビールが運ばれメートルの上昇と共に上田時代の思い出話に花を咲かせそれぞれの時代の上田と学生気質を披露に及んだ。話が母校改革問題に移ると学部 of 将来の発展の為に熱心に意見を吐く一コマもあった。かくて時の経つのも忘れ午後8時過ぎ江野村支会長の努力に報ゆる為にも会員相互の連携を密にして山陽千曲会を盛り上げる事、8月中に募金を達成する事等を決めて散会した。今回は母校創立50周年を契機として文字通り盛況の山陽千曲会となる事を確信する次第である。(松田記)

出席者	倉敷レーヨン猪原良芳(糸22)
同	那須野昭文(化7)
同	堀内 武(化8)
新三菱重工	藤田六五生(糸25)
倉敷繊維加工	高岡 米治(紡19)
同	松田 昭(学糸7)
倉敷工業高校	水野 保(学紡2)
	以上

50周年記念事業募金申込額600万円突破

母校50周年記念事業募金申込については各支会長初め各位の絶大なる御賛同御協力によって申込額600万円に達成しました。最近東京、神奈川、近畿、鹿兒島、北信、上小、各支会等は幹部の御尽力により好成果が得られました。然し北海道、越佐、北佐久、竜川、静岡、山陽、香川、北九州、熊本の各支会はいぜん停滞状況であるから他支会との均衡上今一奮発最後の御努力を切望いたします。

尚募金納入期は既にすぎでおりますから速かに募金納入下さるようお願い申し上げます。

母校50周年記念事業実行委員会

50周年記念事業募金申込

- ① 更埴支会
 - 5,000円 横田三平(糸4)
- ② 北信支会
 - 5,000円 宮堀俊雄(蚕17)
 - 4,100円 森山 甫(蚕22)
 - 3,000円 新井宇之輔(蚕15)
- 1,000円 宮下純一郎(学糸5)
- ③ 諏訪支会
 - 5,000円 小松忠幸(糸25)【小口宗久(糸25)小口哲男(蚕38)】
 - 1,500円 高橋真(糸38) 林 幸彦(学糸2)
 - 1,000円 石坂安雄(学糸7)
- ④ 近畿支会
 - 5,000円 前田益蔵(糸10) 岡崎喜熊(紡5)
 - 4,500円 松沢榮(紡12)
 - 2,500円 小林清茂(紡25) 伊倉和夫(化5)
 - 2,000円 松野喬木(紡27) 鳥田三郎(糸35) 北沢亨(化7) 赤尾寅夫(紡29)

50周年記念事業募金申込及納入状況

(35. 8. 29 日現在)

支会名	募金申込額		募金納入額		申込率%
	人員	金額	人員	金額	
北海道	6	14,500	5	13,500	40.2
北 奥	30	52,400	28	46,900	70.8
山 形	17	60,500	17	59,000	99.2
宮 城	27	89,500	25	50,400	151.7
福 島	57	159,500	49	130,500	114.7
茨 城	44	80,500	37	63,500	72.7
栃 木	21	41,000	21	41,000	67.2
群 馬	104	269,300	27	70,000	92.4
埼 玉	102	238,000	44	113,000	100.0
千 葉	21	71,000	21	68,000	116.4
東 京	176	500,600	164	440,600	71.0
神 奈 川	58	163,000	52	145,500	69.7
山 梨	24	54,000	23	52,000	78.3
越 後	21	61,000	21	54,500	53.0
富 山	44	91,500	41	85,000	102.8
石 川	19	43,250	18	40,800	86.0
福 井	14	36,700	9	23,500	91.8
北 佐 久	32	107,400	23	58,900	59.0
南 佐 久	30	65,500	25	49,500	97.8
上 小 内	181	521,500	110	279,000	70.1
更 埴	98	464,500	98	458,656	178.0
北 信 濃	70	188,900	42	101,200	85.5
安 筑 訪	103	259,100	79	189,600	64.6
諏 訪 川	87	212,000	61	140,500	82.8
鹿 沼	35	215,000	19	81,500	106.9
岐 阜	23	52,500	15	26,500	46.9
静 岡	33	94,500	28	82,500	66.9
愛 知	21	62,000	15	42,000	58.5
三 重	208	416,600	194	379,800	106.5
近 畿	61	159,600	46	106,400	128.7
兵 庫	124	320,500	106	273,000	82.0
三 丹	68	182,100	13	27,300	120.5
山 陽	46	164,500	46	154,500	152.3
山 陰	40	111,000	39	107,000	45.7
徳 島	18	47,000	13	32,000	78.3
高 知	15	45,500	14	44,000	111.0
愛 媛	9	17,500	8	12,500	116.7
香 川	21	80,000	18	53,000	101.3
北九州	1	10,000	1	10,000	50.0
熊 本	30	84,500	20	54,000	50.6
宮 崎	12	29,500	12	29,500	50.0
鹿 児 島	7	26,500	6	21,000	73.6
台 湾	14	42,000	14	42,000	102.5
朝 鮮	2	5,000	1	3,000	29.0
計	2,174	6,010,950	1,671	4,356,556	84.5

50周年記念事業募金申込

①追加申込 鹿児島支会
 5,000円 中山吉二(蚕12)
 4,000円 水野健吉(糸3)(東京)
 2,000円 児玉新一(蚕24)
 1,500円 小林恵吾(蚕別2)
 (上小)

②宮城支会
 1,000円 西角繁博(蚕36)

③埼玉支会
 3,000円 小林憲三(紡19)
 1,500円 榎部正夫(紡22)
 1,000円 山辺祐一(学糸6)

④千葉支会
 1,000円 春原 寛(学蚕2)

⑥東京支会
 10,000円 根岸只吉(紡4)
 8,000円 宇治義春(紡7)
 5,000円 橋本武光(蚕7)
 出浦 長(糸17)
 滝沢啓四郎(糸17)
 西田勇三郎(糸17)
 内藤良雄(蚕14)
 大槻四郎(蚕21)
 唐沢正平(蚕2)

3,000円 武井和夫(糸20)
 2,000円 森田英男(糸30)
 小泉 繁(紡27)
 深野千晴(化4)
 緑川栄一(蚕30)

1,500円等々力宜安(糸22)
 1,000円 渡辺 進(農3)
 宮下民雄(学蚕5)
 清水三郎(学蚕3)

⑦神奈川支会
 5,000円 吉田義夫(蚕13)
 3,000円 天田富五郎(蚕5)
 2,500円 吉池正竹(糸34)
 2,000円 丸山 植(蚕27)
 1,000円 太田清蔵(糸1)
 前田勝啓(学化6)

⑧富山支会
 1,000円 間宮正敏(学紡8)

⑨福井支会
 1,500円 堀 親郎(農2)

⑩上小支会
 5,000円 桜井幸男(紡23)
 桜井隆夫(紡4)
 3,000円 宮島徳一郎(旧職)
 茅野清三郎(糸15)
 平野長男(紡24)
 小泉正徳(紡22)
 村井三郎(化3)
 2,500円 樋口 昭(化5)
 2,000円 堀江史郎(蚕35)
 供野邦敏(化7)
 船渡善四郎(糸37)

1,500円 石井 貞(農5)
 1,000円 室岡和夫(学糸5)
 和田義郎(学糸4)
 石井 晋(学蚕4)
 細田明夫(学蚕7)
 非沢葉子(教7)
 中沢昭治(学糸5)
 太田宏一(蚕別5)

小計 212,100円
 累計 5,541,050円

母校だより

○7月31日信州大学婦人講座が母校講堂で開設講師は会田教授「化学繊維の取扱」について講義盛況を呈した。

○7月31日から1週間にわたり山口、松尾両教授、小山助教講師のもとに理科実験講習会が開催された。

○8月1日林前学部長の名誉教授の称号授与式が本部学長室で厳粛に行われた。

○8月2日高校家庭科教員を対象に会田教授講師として家庭科講習会が開催された。

○8月11日昨年台風7号で倒壊した大室農場の管理棟等の復旧落成式が挙行された。

○8月18日から3日間、竹田両助教が講師で高校農業科担当教員を対象に農業科講習会が開催された。

○8月25日母校50周年記念視察会の正副委員長会議を開催し、細目について打合せされた。

○8月26日このほど宮城県農業試験場に兼任の西山久雄助手が兼任された。

本 会 日 誌

○7月21日学内理事会開催。

○7月22日50周年記念事業協賛会について関係業界に協賛会員として協賛の依頼状発送。

○7月25日50周年記念事業協賛の役員依頼状発送。

○7月31日鹿児島支会総会が開催された。

○8月2日学内理事会開催。

○8月6日北信支会総会開催を会より町田理事出席。

○8月6日記念事業実行委員長岩坂直一氏来会地元関係業界の記念事業協賛の件について協議。

○8月8日近畿支会長石坂虎清郎氏、香山清和理事来会。

○8月13日会報編集委員会開催。

○8月29日母校50周年記念事業協賛会の創立総会が上田商工会議所で盛大に開催された。

編 集 後 記

学内も50周年の記念行事を間近かにひかえ、この催しを有意かつ盛大に行なうために尽力いたしております。会員皆様方の御支援をお願いいたします。

編集理事 田口 亮平 白井 美明
 編集部長 矢野清光 篠原 昭
 藤旗 剛寛 小笠原直次
 滝沢 達夫 白井 要範